【資料】

大学入試における小論文の形式について
―アンケートを通じて―

荒井清佳, 石岡恒憲（大学入試センター研究開発部）

課題数や制限字数，回答時間などの小論文試験の実施形式に焦点を当て，アンケート調査を通じて受験する側から見た小論文試験について検討を行った。実験参加者を4群に分けて，字数や時間の設定を変えて小論文試験を実施した後にアンケート調査を行った結果，字数や時間については，300字を30分で実施した場合に「適切である」という評価が多かった。小論文試験の形式については，「60分×1課題」を選ぶ者が最も多かったが，群によっては「30分×1課題」を選ぶ者が最も多かった。アンケート調査の結果からは小論文試験において複数課題の実施は可能と考えられる。

1　はじめに

日本の大学入学者選抜をみると，共通第一次学力試験が導入されて以来，小論文試験を個別試験で課す大学は増え（渡部・平・井上，1988；井上，1996），平成26年度には国公立大学の約75％が小論文試験を実施している（文部科学省，2013）。しかし，小論文試験には，客観式テストとは異なり，評定者の主観に基づいて採点せざるをえない部分があることから，妥当性や評価の信頼性など測定論的問題があることが古くから指摘されている（渡部ら，1988；村上，2005；宇佐美，2008，2011，2013）。こうした問題点のうち，課題内容や課題数，制限字数，回答時間などの，小論文試験の作成・実施段階に焦点を当てた研究は，試験を実施する上で必要な観点であるにも関わらず，数が少ない。

課題数については，単一の課題よりも複数の課題を課す方が評価の信頼性が高くなるという結果が示されている（大久保，2013；宇佐美，2013）。制限字数や回答時間の違いは，産出される小論文の内容や構成に影響を与える可能性がある。例えば制限字数が多い方が少ない場合に比べて，多様な論理展開が可能になり，主張の根拠が具体的になると考えられる；一方，回答時間が短い場合には，十分に内容や構成を考えられず，書き手の本来の能力を表現できない可能性がある。しかし実際の試験場面においては，試験時間や採点時間の制約等から，制限字数や回答時間を長くしたり，複数の課題を実施したりするのは難しい場合が多いであろう。

そこで，制限字数と回答時間及び課題数を変えて小論文試験を実施し，それらの違いが小論文試験の測定に与える影響を検討することを目的に実験を行った。本研究はこの実験で実施したアンケート調査に対する回答に焦点を当て，受験する側から見た小論文試験について検討を行う。試験を実施する立場から試験の妥当性や信頼性を確保することは当然に必要なことであるが，受験者にとって当該試験に納得でき，受験するに値するものであると認識されることは，受験者の能力を引き出すためにも求められることである。

2　実験とアンケート調査について

本稿で扱うアンケート調査は，平成26年度大学入試センター試験モニター調査における小論文実験の時間内に行われたものである。このモニター調査の参加者は都内五つの大学の大学1年生であり，実験のほかに，平成26年度大学入試センター試験の主要科目に解答

した。実験参加者は 330 名，実験日は平成 26 年 1 月 26 日であった。

2.1　小論文実験について

小論文実験は制限字数・回答時間・課題数を変えて実施した。制限字数（少／多）×回答時間（短／長）の 4 群に実験参加者を分け，回答時間の短い 2 群にのみ課題を二つ課した。各群の人数及び割り当てを表 1 に示す。

表 1: 各群の人数と課題の割り当て

群	人数	課題（字数）・時間
第 1 群	90	小論文 A（300 字）・30 分
		小論文 B（400 字）・30 分
第 2 群	94	小論文 A（600 字）・30 分
		小論文 B（800 字）・30 分
第 3 群	73	小論文 A（300 字）・60 分
第 4 群	73	小論文 A（600 字）・60 分

回答時間は短い場合は 30 分とし，第 1 群と第 2 群に割り当てた。長い場合は 60 分とし，第 3 群と第 4 群に割り当てた。

制限字数については，第 1 群と第 3 群は少ない方の課題を，第 2 群と第 4 群は多い方の課題を割り当てた。課題の一つ目（小論文 A）は，短い文章を読ませ，その文章の要約（問 1）とその文章に対する自分の意見を書かせる（問 2）課題である。制限字数は，問 1 は 80〜120 字で全群で共通，問 2 は少ない場合は 300 字，多い場合は 600 字とした。課題の二つ目（小論文 B）は，課題文の無い，比較的短い問題文を読んで自分の意見を書かせる課題である。制限字数は，少ない場合は 400 字，多い場合は 800 字とした。第 1 群に課した小論文 A，B を付録に掲載する。

2.2　アンケート調査について

小論文課題の後，全員に実験に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施時間はおよそ 10 分間であった。このアンケート調査では，I. 回答した小論文課題について（制限字数や回答時間が適切かどうか等），II. 小論文等の経験について，III. 試験の形式についてを尋ねた。

群によって課題の制限字数や回答時間が異なるため，質問 I は各群の割り当てに沿った内容となるよう 4 種類のアンケート用紙を作成した。アンケートの質問項目を付録に掲載する。なお，質問項目中の「異なる」とは，字数の少ない群（300 字あるいは 400 字）に対しては 600 字あるいは 800 字のことであり，字数の多い群ではその逆である。また時間の短い群（30 分）では 60 分のことであり，時間の長い群（60 分）では 30 分のことである。実際に用いたアンケート用紙には，群に応じて具体的な数値が示されている。

本研究では，入試で実施する小論文の形式に焦点を当てるため，アンケートの I の一部と III の結果を取り上げる。

3　結果

3.1　各群の国語の成績について

大学入試センター試験のうち，小論文と関連があると考えられる「国語」の成績（200 点満点）について，群別の平均点と標準偏差を求めた（表 2）。国語の成績について群を要因として分散分析を行ったところ，有意差は認められなかった。

表 2: 各群の国語の成績

群	平均	標準偏差
第 1 群	120.96	22.91
第 2 群	117.96	24.80
第 3 群	115.88	24.95
第 4 群	124.04	22.37

3.2　質問 I の結果

質問 I では，回答した小論文課題についての意見を 1〜5 の 5 段階評定で尋ねた。群ごとに

表 3: 質問 I　小論文課題の字数や時間について　± の次の数値は標準偏差

質問項目	小論文 A				小論文 B	
	第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群	第 1 群	第 2 群
(3) 字数が適切か	3.0 ± 0.6	3.4 ± 0.7	2.8 ± 0.7	3.4 ± 0.6	2.7 ± 0.7	2.4 ± 0.8
(4) 時間が適切か	3.0 ± 0.7	2.2 ± 0.7	4.1 ± 0.8	3.4 ± 0.7	3.2 ± 0.7	2.5 ± 0.8
(5) 満足度	3.0 ± 1.0	2.5 ± 1.1	3.0 ± 1.0	2.9 ± 1.2	3.1 ± 1.0	2.9 ± 1.1
(6) 異なる字数であればどうか	2.5 ± 1.0	2.8 ± 1.1	2.6 ± 1.2	2.5 ± 1.1	2.5 ± 1.2	2.6 ± 1.2
(7) 異なる時間であればどうか	2.4 ± 1.1	3.3 ± 1.2	3.4 ± 1.3	2.6 ± 1.2	2.4 ± 1.1	3.1 ± 1.1

評定値の平均を求め，表 3 にまとめた。

全員に課した小論文 A について，質問 I(3)〜(5) の結果を見ると，第 1 群において字数，時間ともに 3.0 であり，設定した字数，時間が平均的に見ると受験生にとって適切であったと推察される。それ以外では，時間が第 2 群では「やや短い」，第 3 群では「やや長い」という結果であった。満足度については第 2 群を除いていずれもほぼ 3.0 であった。異なる字数や時間であればどうかという質問に対しては全体としてやや否定的（「2. あまりそう思わない」〜「3. どちらともいえない」の間）であったが，質問 I(7) の第 2 群及び第 3 群ではやや肯定的であった。

小論文 B については，第 2 群で字数がやや少なく，時間がやや短いという結果であった。

3.3　質問 III の結果

質問 III では試験の形式について尋ねた。各群において各選択肢を選んだ割合を表 4，5 に示した。

質問 III(1) については，第 1 群では「1:30 分 × 1 課題」を選ぶ者が最も多かったが，それ以外の群では「3:60 分 × 1 課題」を選ぶ者が最も多かった。質問 III(2) については，どの群でも半数近くが「1:センター試験「国語」」を選び，小論文のみ，あるいはセンター試験と小論文の併用はそれぞれ 4 分の 1 程度であった。

3.4　質問 III の結果　自由記述

質問 III において，その選択肢を選んだ理由について自由記述で回答してもらった。その回答のうちのいくつかを下に挙げる。

質問 III(1)

［1：30 分 × 1 課題］を選んだ人の回答

・一つ 30 分でちょうど良く，二つも受けるのは大変だから。

・楽だから。

［2：30 分 × 2 課題］を選んだ人の回答

・30 分の方が集中しやすい量であり，二つあれば一発勝負のリスクがないから。

・60 分の試験は少々長すぎで，30 分が一つだと少ないから。

［3：60 分 × 1 課題］を選んだ人の回答

・一つの物事に集中して正面から取り組むべきと考えるから。

・熟考し，論理展開をきっちりさせたいから。

［4：60 分 × 2 課題］を選んだ人の回答

・二つの方がリスクを分散できる（30 分は短すぎる）

・張り合いのあるものを望む。

質問 III(2)

［1：センター試験「国語」］を選んだ人の回答

・小論文は採点基準がよく分からないため。

・小論文を書くことが苦手だから。

・点が確実に，努力した分だけとれるから。

［2：60 分間の小論文試験］を選んだ人の回答

・センター国語の方式があまり好きではないから。

・マークテストより，自分の意見を「書く」という練習をした方がいいと考えるから。

表 4: 質問 III(1)　希望する小論文試験の形式について

	第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群
1：30 分× 1 課題	43 %	29 %	23 %	15 %
2：30 分× 2 課題	28 %	14 %	15 %	11 %
3：60 分× 1 課題	24 %	47 %	42 %	53 %
4：60 分× 2 課題	4 %	11 %	19 %	21 %

表 5: 質問 III(2)　希望する大学の入学試験の形式について

	第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群
1：センター試験「国語」	42 %	51 %	52 %	53 %
2：60 分間の小論文試験	29 %	22 %	25 %	23 %
3：センター試験「国語」と小論文試験の併用	29 %	27 %	23 %	23 %

・自分の意見，思考力，文章力を直接測ってもらえるから。

［3：センター試験「国語」と小論文試験の併用］を選んだ人の回答

・あらゆる側面から国語力が判定できるから。

・読解力を見る「国語」の試験と，自分の意見を書かせる「小論文」の試験で総合力をみてもらえる。

3.5　質問 III(2) と質問 I とのクロス集計

質問 III(2) への回答は受験科目として小論文試験を選ぶかどうか，即ち小論文試験に対して“前向き”か“そうでない”かを表していると考えられる。そこで質問 III(2) で「2」「3」を選んだ者（“前向き”）と「1」を選んだ者（“前向きでない”）とに分け，質問 I の各回答とクロス集計を行った。質問 I の回答は傾向が見やすいように「1」と「2」,「4」と「5」をまとめ，三つのカテゴリとした。このうち，クラメールの連関係数が 0.2 以上となった五つの組み合わせを表 6〜表 10 に示す。

表 6: 第 1 群-質問 I(3)(小論文 A) 連関係数 = 0.22

	質問 I-1,2	3	4,5
前向き	19.2 %	61.5 %	19.2 %
前向きでない	7.9 %	81.6 %	10.5 %

表 7: 第 1 群-質問 I(3)(小論文 B) 連関係数 = 0.27

	質問 I-1,2	3	4,5
前向き	40.4 %	51.9 %	7.7 %
前向きでない	15.8 %	71.1 %	13.2 %

表 8: 第 2 群-質問 I(6)(小論文 A) 連関係数 = 0.21

	質問 I-1,2	3	4,5
前向き	56.5 %	17.4 %	26.1 %
前向きでない	35.4 %	25.0 %	39.6 %

表 9: 第 4 群-質問 I(4) 連関係数 = 0.23

	質問 I-1,2	3	4,5
前向き	0.0 %	52.9 %	47.1 %
前向きでない	10.3 %	51.3 %	38.5 %

表 10: 第 4 群-質問 I(5) 連関係数 = 0.24

	質問 I-1,2	3	4,5
前向き	36.4 %	6.1 %	57.6 %
前向きでない	46.2 %	17.9 %	35.9 %

第 1 群では質問 I(3) の回答において，小論文 A について（表 6）は，“前向きでない”群は「3」の回答が多いのに対し，“前向き”群では字数が「少ない」あるいは「多い」の回答の割合が高かった。小論文 B について（表 7）は，“前向きでない”群は「3」の回答が多いのに対し，“前向き”群では字数が「少ない」の回答の割合が高かった。第 2 群では質問 I(6) の回答において（表 8），“前向きでない”群は「1,2」と「4,5」の回答の割合が同程度であるのに対し，“前向き”群では異なる字数であれば満足する文章が「書けるとは思わない」の回答の割合が高かった。第 4 群では質問 I(4) の回答において（表 9），“前向きでない”群よりも“前向き”群の方が時間が「長い」の回答の割合が高かった。また，質問 I(5) の回答において（表 10），“前向きではない”群よりも“前向き”群の方が文章への満足度が「高い」とする回答の割合が高かった。

4　考察

本研究では，課題数や制限字数，回答時間などの小論文試験の実施形式に焦点を当て，アンケート調査を通じて受験する側から見た小論文試験について検討を行った。実際に小論文試験を受けた後にアンケート調査を行っているので，受験者の実感に基づいた回答が得られていると考えられる。ただし，群によって課題数や制限字数，回答時間が異なるため，想定されている小論文試験に違いがあることに注意が必要である。

まず，小論文 A について，字数や時間設定の適切さに関しては，平均して考えると第 1 群が字数，時間ともに「適切である」という結果であり，第 1 群の 300 字・30 分を基準として考えると，他の群の結果も納得のいく結果であった。なかでも第 2 群は 600 字・30 分と設定が最も厳しい群であったが，アンケートの回答にも厳しい様子が表れており，満足度も第 2 群だけやや低い結果となった。また，異なる字数であればどうかという質問に対しては，どの群もやや否定的であったが，異なる時間であればどうかという質問に対しては，第 2 群及び第 3 群ではやや肯定的であった。第 2 群では時間が短すぎたこと，また第 3 群では時間を短くしても大丈夫そうであることが伺える。

小論文 B については，第 1 群では「字数はやや少なく，時間はやや長い」という結果であり，第 2 群では「字数はやや少なく，時間はやや短い」という結果であった。第 2 群は 800 字・30 分であるにもかかわらず，両群とも小論文 A に比べて小論文 B の方が「字数が少なく，時間が多い」という傾向の評価がなされたが，これは課題内容そのものが書きやすい課題であったことや，2 題目の課題であることから一定の時間内に一定の字数を書くことに対するする慣れのためと考えられる。

小論文試験の形式について（質問　III(1)）は，第 1 群以外では 4〜5 割の者が「3：60 分 × 1 課題」を選んだのに対し，第 1 群では 43 %が「1：30 分× 1 課題」を選んだ。第 1 群では，30 分課題に対する支持が合わせて 71 %と多いが，これは小論文 A の 300 字・30 分という設定がちょうど良かったために，30 分の時間設定に対し好意的になったためと考えられる。

また，複数課題を希望したものの割合は 30 分課題と 60 分課題とを合わせると，第 2 群では 25 %であったが，それ以外の群では 32 %〜34 %であった。第 2 群は設定が厳しかったため，複数課題は敬遠されたのであろう。それ以外の群では複数課題に対する抵抗感は大きくはなさそうである。

自由記述による理由を見ると，時間については，負担を軽くしたい，集中して書きたいという理由で「30 分」が，じっくり取り組みたいという理由で「60 分」が選ばれており，課題数については，負担を軽くしたいという理由で「1 課題」，リスクが心配であるという理由で「2 課題」を選ぶ人が多かった。

大学の入学試験の形式について（質問 III(2)）は，どの群でも 4 割〜5 割が「1：センター試験「国語」」を選び，小論文のみ，あるいはセンター試験と小論文の併用はそれぞれ 4 分の 1 程度であった。自由記述による理由を見ると，センター試験「国語」を選んだ人は，小論文が苦手であったり，採点に不安を感じているようであり，逆に小論文試験を選んだ人は，自分の意見を書くことに積極的な意味を見いだしているようであった。センター試験「国語」と小論文試験の併用を選んだ人は，総合的な力を見てもらいたいと考える人が多かった。

質問 III(2) への回答は，小論文試験に対して“前向き”か“そうでない”かを表していると考え，質問 III(2) と質問 I の各回答とクロス集計を行った。全部で 5 質問 ×4 群の 20 個のクロス集計表のうち，クラメールの連関係数が 0.2 以上となったのは五つであった。まず，表 6，表 7，表 9 より，“前向き”群の方が“前向きでない”群よりも，「少ない」あるいは「多い」等と「適切である」以外の意見が多かった。また，表 8 及び表 10 から，“前向き”群の方が“前向きでない”群よりも，自分の文章に満足しており，異なる設定で書き直しても満足するとは限らないと思っているという傾向が見られた。クラメールの連関係数が 0.2 以上であれば連関が強いというわけではないが，“前向き”群と“前向きでない”群で回答の傾向が異なることがあることが分かった。小論文試験の実施形式を考える上では，両群の違いを踏まえた上で，受験生の声に耳を傾けるべきであろう。

以上より，小論文試験の形式については，制限字数が適切であれば 30 分の課題も支持されることが分かった。また，課題数については，2 課題を希望する者が 3 割程度いた。評価の信頼性の観点からは課題数は複数の方が望ましく，複数の課題を実施することも実現可能と考えられる。

また，質問 III(1)，(2) の自由記述の中から小論文についての意見を見ると，直接評価してもらえる，時間と字数をかけてじっくり取り組みたい等の肯定的な意見から，課題によるリスク，採点基準が不明等の否定的な意見まであった。中には負担を軽くしたいという意見もあるが，肯定的な意見も否定的な意見も，自分の実力を適切に測定して欲しいと希望が背景にあると考えられる。このような受験者の声に応えられるよう，出題形式や出題内容について吟味する必要があるだろう。

小論文試験の形式については，受験者の意見のみでは判断できるものではなく，測定論の観点から短い時間や短い字数による小論文課題で測りたいものを適切に測定できるのかどうかを今後検討する必要がある。

謝辞

本研究の一部は，科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究：研究課題番号 23650558，研究代表者：石岡恒憲）及び科学研究費補助金（若手研究（B）：研究課題番号 23730639，研究代表者：荒井清佳）の助成を受けました。ここに記し，謝意を表します。

参考文献

井上俊哉 (1996). 論述式テストの利用について—客観テストと比較して—. 東京家政大学研究紀要, **36**, 7-16.

文部科学省 (2013). 平成 26 年度国公立大学入学者選抜の概要. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/

25/09/1339253.htm

村上京子 (2005)．日本留学試験「記述問題」が測っているもの．日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ (2)，306-315.

大久保智哉 (2013)．400 字論述課題における能力測定の信頼性．大学入試センター研究紀要，**42**, 1-12.

宇佐美慧 (2008)．小論文試験の採点における文字の美醜効果の規定因—メタ分析及び実験による検討—．日本テスト学会誌, **4**,48-59.

宇佐美慧 (2011)．小論文評価データの統計解析—制限字数を考慮した測定論的課題の検討—．行動計量学, **38**, 33-50.

宇佐美慧 (2013)．論述式テストの運用における測定論的問題とその対処．日本テスト学会誌, **9**,145-164.

渡部洋・平由美子・井上俊哉 (1988)．小論文評価データの解析．東京大学教育学部紀要, **33**, 7-16.

付録 1　小論文課題

小論文 A

次の文章を読み，問 1 及び問 2 に答えなさい。(30 分)

（課題文省略）

（ショーペンハウアー『読書について』鈴木芳子訳，光文社古典新訳文庫より）

問 1　この文章を 80 字〜120 字で 要約しなさい。
問 2　読書に対する著者の意見について，あなたはどう考えますか。あなたの意見とその根拠が明確になるように，300 字以内で 論述しなさい。

小論文 B

問 (30 分)

2011 年度から，全国の公立小学校の 5，6 年生では週 1 回の「外国語活動」が必修となっています。英語教育が小学生から始まることについて，あなたはどう考えますか。あなたの意見とその根拠が明確になるように 400 字以内で 論述しなさい。

付録 2　アンケートの質問項目及び選択肢

質問 I

(3) 字数の設定は適切でしたか。
1. 短すぎる
2. やや短い
3. 適切である
4. やや長い
5. 長すぎる

(4) 試験時間の設定は適切でしたか。
1. 短すぎる
2. やや短い
3. 適切である
4. やや長い
5. 長すぎる

(5) 自分の満足する文章が書けましたか。
1. 全く満足していない
2. あまり満足していない
3. どちらともいえない
4. まあまあ満足している
5. 非常に満足している

(6) 異なる字数であったとしたら，より満足する文章が書けたと思いますか。
1. 全くそう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらともいえない
4. そう思う
5. 非常にそう思う

(7) 異なる試験時間であったとしたら，より満足する文章が書けたと思いますか。
1. 全くそう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらともいえない
4. そう思う
5. 非常にそう思う

質問 III

(1) 小論文試験を次の四つの形式のうちから選べるとしたら, どれを選びますか。
1. 試験時間 30 分の課題が一つ
2. 試験時間 30 分の課題が二つ
3. 試験時間 60 分の課題が一つ
4. 試験時間 60 分の課題が二つ

(2) 大学の入学試験として受けるなら, 次の三つの形式のうちのどれを選びますか。
1. センター試験の「国語」
2. 今回のような 60 分間の小論文試験
3. センター試験の「国語」と今回のような 60 分間の小論文試験の併用